



第3回 MAXI 国際ワークショップ 「Astrophysics with All-Sky X-Ray Observations」開催報告

三原 建弘

〈理化学研究所・牧島宇宙放射線研究室 〒351-0198 和光市広沢 2-1〉

e-mail: mihara@crab.riken.jp

国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」に来年春に搭載する全天 X 線監視装置マキシ (MAXI) に関する第3回国際ワークショップ「Astrophysics with All-Sky X-Ray Observations」を、理化学研究所・JAXA 共催、日本天文学会・日本物理学会後援のもと理化学研究所 (埼玉県和光市) で開催いたしました。2008 年 6 月 10 日から 6 月 12 日までの 3 日間、約 180 名の宇宙物理学者および企業の参加 (国外 10 カ国 33 名、企業 22 名) をいただきました。

来年夏に観測を開始する MAXI を用いて宇宙物理・天文分野での研究を推し進めるために、41 名の口頭発表 (国内 20 名、国外 21 名) と 42 本のポスター発表を通じて、活発な討論が行われました。ワークショップ翌日の 13 日には、筑波宇宙センターへのバスツアーを実施し、すでに完成し、まもなく米国ケネディ宇宙センターに送られる MAXI の装置本体を参加者に見学してもらいました。

MAXI は、X 線で見た全天宇宙地図を時々刻々作成し、インターネットを通じて全世界の科学者にすばやく提供するミッションです。利用者は専用の Web ページからいつでも誰でも最新の天文データを取得できます。また事前登録すれば、MAXI が新天体や新現象を発見した際に、その自動速報を発見後約 1 分以内に登録メールアドレスで受け取れる仕組みを準備しています。速報体制についての発表では、「銀河系内トランジェント天体などでは発生後 1 時間以内にアラートを発行して欲しい」という希望が強く寄せられました。

MAXI に対する関心は高く、会議期間中の 6 月 12

日に打ち上げられたアメリカのガンマ線天文衛星 GLAST のリーダー陣をはじめ、欧米・アジアの国々の天文学者・宇宙物理学者が参加し、MAXI との多波長連携観測を念頭に置いた論文の発表および討論が行われました。「まもなく MAXI (0.5–30 keV), Swift/BAT (15–350 keV), GLAST (30 MeV–300 GeV) の全天観測ドリームチームが結成される」とは Neil Gehrels (NASA/GSFC/Swift-PI) の弁です。

またさまざまなミッションや、観測プロジェクトのリーダーとのインフォーマルミーティングも行われ、少なくとも 5 年以上を目標とした MAXI の運用と、研究者の交換も含めた緊密な国際協力体制の確立の要望を受けました。現状の 10 倍の感度で全天観測を行う MAXI への期待は大きく、「2 年 5 年と言わず、10 年間、全天観測を続けてほしい。継続こそが力なり。」という声が多数聞かれました。

MAXI が最大限の成果を上げ、今回得られた要望・課題を達成できますよう、これまで以上の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

今回のワークショップの開催にご尽力いただいたアドバイザーの皆様、運営に奔走していただいた学生、ポスドク、スタッフの皆様、そして参加者の皆様、ありがとうございました。

なお、本ワークショップの諸経費には日本学術振興会国際研究集会、宇宙科学振興会、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構、文部科学省科研費からの支援を活用させていただきました。ここに深く感謝いたします。

